九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

演習林の研究に思う

木梨, 謙吉
九州大学農学部付属演習林 : 教授

https://doi.org/10.15017/1456332

出版情報：演習林研究経過報告. 昭和44年度, pp.1-1, 1970. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

演習林の研究に思う

この１年大学紛争を通し、種々の問題が提起された中で、大学演習林の研究の問題もその１つであつた。大学演習林のあるべき研究体としての姿を把握したいと努力した多くの日々を思い起すであろう。

今我々は問題が解決したと思つてはいない。むしろ多くの未決の問題に向つて、１つ１つ地道の努力をもつて、事の解決に当ろうとしている。「われ山べに向いて目をあぐ」という詩篇第１２１章の言葉にはじまるように、問題の山に向つて解決への努力を積み上げねばならない。

大学演習林が今日ほど、森林の自然性を誇示しうる時はないように見える。自然破壊への楯のように輝いている。ロンドン首都圏の中の何人も剝奪しえない広大な森林緑地帯は高度の文化を象徴するかのようである。

しかしたゞ防るだけで我々の任務は終らない。資源の増殖は我々の研究の主題テーマであろう。長期の改良周期、結実の不完全、幼木と成木の特性の相関度の中に多く含まれる時間という林学特有の困難性を克服しなければならない。そのため我々は刻々研究の成果を積み上げるべきであろう。

演習林の中で技術グループ、事務グループ、教育・研究グループの人たちが互にその専門職能を十分に理解認識して協力する以外このような研究を遂行することは出来ないと思う。

研究部長　木梨謙吉